（別紙３）

公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援　すきっぷ神楽Ⅱ			
○保護者評価実施期間	令和7年2月15日	～	令和7年2月25日	
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	5名	（回答者数）	5名
○従業者評価実施期間	令和7年2月15日	～	令和7年2月25日	
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	5名	（回答者数）	4名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年3月11日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・運動支援、スキー支援	・礼節を伝え社会性を身に着けるために、挨拶には力を入れています。 ・チームを分けて支援を行うことで、視覚的に何をしたら良いかわかりやすく伝えています。 ・ある程度、年齢に合わせた様々なアプローチ方法で、運動メニューを設定しています。	・運動、スキー支援への熱量を研修を通してスタッフ間で統一します。 ・メニューの幅を増やすための研修を実施します。
2	・活動、遊び	・遊びや活動に全力で取り組み、利用児が楽しめる時間を作る。そのために、取り組むところと楽しむところの時間分けをはっきりさせています。	・職員の進行技術や関わる技術の向上を、研修を通して学び実践に移していきます。
3	・行事(外出等)	・利用児のワクワク・ドキドキを意識した企画と提供。そのために、計画書と報告書の作成を行い、次回へつなげられるようにしています。	・利用児の目線から、学ぶポイントを必ず考えられるようプランニングシートの有効な活用を実施します。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・子どもたちの楽しませ方	・個々に合わせた遊び方や遊びのマンネリ化	・設定遊びの変化や個々に合わせた遊びの充実を図り、子どもたちの楽しめる遊びを見つけていきます。
2	・職員間の情報の発信と解釈	・書類の提示や情報の発信が、相手に伝わっていません。 ・上司や同僚からの引継ぎや指示の解釈がずれてしまいます。	・発信していく場を作る。書類で配布するだけではなく、SNSを活用し発信していきます。 ・指示や引継ぎをした場合、どう受け取ったかの再確認を行い、解釈の修正をその場で行うようにします。
3	・保護者への助言	・日常の利用児の困り感に対する聞き取りやアドバイスが不足しています。	・面談のみならず、電話連絡やLINEを活用した相談や連絡ノートをさらに活用しアドバイスする体制を作っていきます。